



昭和6年に開花した竜舌蘭



令和6年に開花した竜舌蘭



昭和6(1931)年7月、長泉の米山別邸の庭で龍舌蘭が開花した。龍舌蘭は、葉の形が龍の舌に似ていることから名付けられ、数十年に一度しか花を咲かせないといわれる。このとき米山は短歌の師匠である佐佐木信綱を別邸により、珍しい花の様子と共に愛でた。

佐佐木の歌日記にも「この月、軽井沢、京阪、松阪、鼓が浦にものし、沼津に下車した。米山梅吉君に迎えられ、下土狩(しもとかり)なる君の八十八山荘の庭に咲いた竜舌蘭の珍しい花を見、三島神社に詣でたに」(『作歌八十二年』)と記載がある。

めでたしと人のた、ふるにまかせつ、高々と咲けり竜舌蘭の花は

米山がその開花を眺めてから93年を経て、米山別邸から記念館へ移植された龍舌蘭が花を咲かせた。花茎が急速に伸び始め、約一ヶ月で花芽が少し顔を出し、さらに待つこと一ヶ月。正に「天に冲し」がごとく開花した。今年は各地で龍舌蘭開花のニュースが報道されている。木の実のごとく当たり年があるのかどうか。龍舌蘭の開花、この偶然に巡り合えたことはなんとも「めでたし」。

(15ページに関連記事)

春季例祭

報告

■ 日 時／2024年4月27日(土)午後2時
■ 会 場／米山梅吉記念館ホール

講 演

懇 親 会

【演題】「米国の歴史
米山梅吉とその時代」

【講師】多田 幸雄 氏(東京RC)

講演の主題は温故知新。米山梅吉記念館では今秋を目指して改修が進んでいます。今回は記念館を原点から見直す機会になれば幸いです。見直しには多面的なアプローチが必要でしょう。そこで米山梅吉翁が134年前の多感な青年期に訪米して、勃興期の米国から何を学んだのか、当時の歴史を振り返ってみたいと思います。政治経済、そして現代につながる潮流、特に今年の大統領選挙で何故トランプ氏が共和党候補に選ばれ、序盤戦で現職バイデン大統領と接戦を繰り広げているかも取り上げます。

始めに1776年の建国以来、合衆国＆合州国(国民と州の集合体)として、壮大な実験をくり返して今日に至るアメリカをどう見るか。11月の大統領選挙は、どちらがより悪くないかを選択する展開になると予想されます。結果の良し悪しを問わず、これまでの全ての選択は国民の過半数が賛成したことで、反対派がいかに強くても最終的には常に合法化・正当化されてきました。アメリカン・デモクラシーというはそういうもので、歴史が証明しています。私は1974年の初訪米から半世紀の米国ウォッチャーとして、自分の趣味でもあり、国家分裂の最大の危機となった南北戦争(1861～65年)に、米山翁の足跡を重ねながら、米国を俯瞰してみましょう。

商社マンとして私の滞米経験は14年になります。この1月に渡米した際には、近くに立ち寄る機会があり、米山翁



ごあいさつ 松村友吉理事長



水野功氏(RI理事) 神子田健博氏(東京RC) 池田修氏(長泉町長)



講師 多田幸雄氏(東京RC)

が学んだオハイオ州ウェスレアン大学を訪問してきました。中西部の典型的な町の郊外に位置する中規模の大学は、おそらく米山翁が学んだ130年前とは大きく変わってはいないであろうと、古い建物が並ぶキャンパスを歩きながら思いを馳せました。



翻って現代社会を見ると、変わったアメリカ、変わったか日本で、2015年に国連で採択されたSDGs「持続可能な開発目標」に逆風が吹き始めました。成長の推進力としてグローバル化が歓迎されましたが、2016年にはイギリスがEU離脱したように、一方では移民・難民が急増して負の課題が表面化。途上国の南北格差に加えて、先進国内でも格差が拡大し、分断・分裂の状況が各国にみられるようになりました。昔の国家的資産は領土や地下資源でしたが、今では先端技術と情報に資産価値は大きく変化して米中の対立が激化。百年に一度のパンデミック、気候変動、ウクライナ侵攻や中東紛争などに、国連等の国際機関の調整・解決能力に限界が見えています。また国家を超える巨大企業が興隆し、イーロン・マスク氏の登場や、SNS、LGBTQ運動を通じて国民の声が直接反映するようになりました。トランプ氏の登場は一連の世界的なパラダイムシフトの象徴ともいえます。

先日、来日公演した歌手のティラー・スウィフトが、スーパー bowl の試合観戦のためトンボ帰りをしたことが話題になりました。準優勝したのが49ers(フォーティーナインナーズ)で、チーム名はゴールドラッシュの1849年に由来します。1848年に欧州でジャガイモ飢饉が発生し、生活困窮者は新大陸を目指しました。同年カリフォルニア州で金鉱が発見され、一攫千金を求めて全米各地や海外から移住者が殺到。サンフランシスコの人口は、200人の寒村から3万6千人へと増加して急成長しました。1873年に開通したケーブルカーは米山翁も利用したことでしょう。ケーブルカーの起点にもなっているユニオン・スクエアは市内有数の観光スポットで名店が立ち並び、中華街にも近かったので日本人観光客に人気でした。それが全米から生活困窮者が集まるようになり、集団窃盗が増えて治安が悪化。今ではすっかり荒廃した地区になりました。

昔の出来事を現代の常識で判断することや、海外の諸事情を自国の判断基準を当てはめてしまうことはよくあることです。海外事情であれば、現地訪問で理解することができますが、過去の出来事となるとそういうわけにもいきません。そこで当時をそのままに再現してみようと考える人たちが出てきます。米国でベビーブーマー世代を中心に一時期盛り上がった南北戦争の模擬戦は、その最たるものです。私は40年以上前にロータリー財団奨学生として米国留学した際、語学研修でサウスカロライナ州

チャーチルストン港内にあったサムター砦という南北戦争の開戦地を見学して以来、南北戦争に関心を寄せてきました。その後1997年から2009年までワシントン駐在となり、ワシントン郊外で盛んに開催されていた、南北戦争の実戦シミュレーションに参加してから、南北戦争に浸る日が続きました。模擬戦といつても実弾こそ使わないものの黒色火薬をふんだんに使用、軍服その他装備も時代考証に合わせ連隊ごとに再現されます。激しい戦闘の模擬体験のみならず、当時の野営生活も再現され昼間の戦闘に加えて、日が暮れると焚火を囲んで静かに語る。その時の従軍仲間は米政府高官や米軍将校たちが多く、単なる気晴らしを超えて、アメリカ人の琴線に触れることができたと思います。

米国の南北戦争とは、1861年4月に開戦した北部23州と南部11州の最大の内乱です。当時の米国の人口は3000万人で、日本の人口とほぼ同数でした。男性1500万人のうち400万人が参戦、戦死者は62万人といわれています。これはその後の今日にいたるまでの米国の戦死者を全て合わせた数より多く、米国人同士、同じ親子兄弟で両軍に分かれて戦った犠牲者の数です。南北戦争の一大争点だった奴隸解放宣言につながる1862年9月のアンティータムの戦いでは半日で1万2千人戦死。1864年7月のゲティスバーグの戦いでは、日本の天下分け目の関ヶ原の戦いと同じく両軍合わせて15万人が参戦して、3日間で5万人が戦死しました。国家を二分して長く戦跡が残った悲惨な戦争は1865年4月に終わります。この年、日本は慶應元年となります。敗戦地の米国南部の復興は遅々として進まず、改善したのは第二次世界大戦の軍需と90年代の日米通商摩擦ということも、今年の米大統領選挙の焦点の格差は正や移民問題の背景につながります。

さて、幼少期の梅吉少年が三島で迎えたグラント前大統領は、北軍の奇跡の將軍で、このグラントとの出会いが梅吉にとっての初めてのアメリカとの出会いとなりました。当時の日本はまだ近代国家の体をなしておらず、諸外国とは不平等の通商条約を抱えていました。米山翁の滞米中の1889年に、ようやく大日本帝国憲法が発布されます。国際情勢は激動期を迎え、米山翁の滞米中の1893年に米国はハワイを違法に併合するという暴挙も起きて、その後の米山翁の日本復興への想い、世界観に影

響したと思われます。

南北戦争からの温故知新。ここで現代に戻って、昨年来のトランプ氏を巡る司法の混迷について触れたいと思います。コロラド州最高裁は昨年12月にトランプ氏が2021年1月の連邦議会占拠事件に関わったことを、憲法修正14条3項に基づき同州の予備選参加を認めない判決を下しました。この修正条項は1868年に批准された南北戦争の南軍将校を対象にした古い法律で、合衆国に対する暴動や反乱に関与し、合衆国の敵に援助や便宜を与えた者は、連邦政府や州の官職(Officer)に就けないと規定です。これまでの適用は米山翁が滞米した頃に元南軍の二人。しかし民主党寄りの同州最高裁は議会占拠事件を「反乱」と拡大解釈し、前大統領が関与したと結論付けて判決を下したのです。62万人の戦死者を出した内乱責任者との同列視はさすがに無理があり、トランプ氏は当然判決を不服として連邦最高裁に上訴、連邦最高裁では勝訴しました。

また、日本人には理解しにくい人工妊娠中絶についても同様で、今年4月、トランプ氏が選挙キャンペーンで中絶の裁定は各州に任せると発言したため、アリゾナ州の最高裁は直ちに1864年に制定された中絶禁止法の施行を認める判断を示しました。かように南北戦争に起因する民主党と共和党の党派対立は司法の場に持ち込まれ、全米を二分する争点になっています。

近代からの温故知新にも触れたいと思います。トランプ氏が再選すると米山翁が滞米中のクリーブランド大統領以来の「非連続で2期を務める大統領」になります。クリーブランドは1885年に就任。1888年の選挙で敗れましたが1892年に再選を果たし1893年に2回目の就任式を行いました。その頃の時代背景は、保護主義で国内経済の成長を推進、先進国だったイギリスを凌ぐ産業国に発展しました。その担い手になったのが産業資本を育成した民間資本です。

産業革命で生まれた機械化から、1800年代前半にウォール街に金融業が集まり、1800年代後半には情報通信網の発達で、製鉄、石油採掘・精製、発電など新しい産業が盛況になり、財を成した大財閥は国家を左右するようになります。南北戦争の軍需から、米国は世界最強のエネルギー大国となり、同時に世界最強・最新の軍事大国になります。また、南北戦争を契機に大陸横断鉄道・

鉱山開発、通信網のインフラ建設などに有価証券を発行するようになります。社債を引き受けて資金供給したのが、金融機関としての役割を担い後年、米山翁が注目して日本で初めて設立した信託会社でした。1862年、法貨条例が制定され政府独自の紙幣を発行。リンカーン大統領はヨーロッパの金融資本からアメリカ分断と通貨発行独占権を守りました。しかしリンカーン暗殺によりこの紙幣は廃止されます。

南北戦争は、欧州列強より工業化が遅れて保護主義に走った北部と、綿花の欧州輸出促進で自由貿易主義だった南部の対立でもありました。工業化で移民だけでは足りず、国内最低賃金労働者(黒人)を確保したい北部と、農業で奴隸を必要とした南部の労働力獲得をめぐる対立だったともいえます。1930年のスムート・ホーリー法制定により、アメリカでは高関税政策が取られるようになります。1947年、米議会の反対によりITOはGATTとして発足しましたが、アメリカは自由貿易の原則を強く推進しました。しかし、もともと輸入制限の少ないアメリカでは、度重なる関税引下げが国内産業の競争力低下を加速化し、輸入急増が産業転換のテンポを超えるようになりました。また、ドル調整の遅れもあって、保護措置を望む声が高まってきたのがトランプ氏の支持基盤になっています。

ここに至ってアメリカは他国の保護主義を口実に、自らも保護主義的な措置に踏み切る姿勢が強まっています。「またトラ」になれば高関税政策が復活するかもしれません。そんな意味でも11月の大統領選挙は注目です。建国以来、国民と州の集合体として壮大な実験をくり返してきた米国紙幣に書かれている標語は「エ・ブルリブス・ウスマ」、つまり、アメリカで真に瞠目すべきは「多様なものを一つにしようとする不断の努力」と言えるでしょう。



米山さんと信託と私

小泉 健二

静岡西RC
三井住友信託銀行静岡支店長



中村皇積PDGと筆者(右)

■信託、ロータリー、米山さんとの出会い

「じゃあ、行ってくるよ」 そう言って、NY帰りの支店長は颯爽と支店を後にしていった。

1991年、私は旧三井信託(現三井住友信託銀行)の横浜支店に入社した。遠目に支店長が見える場所が私の席であった。毎週水曜日、昼前になると颯爽と誇らしげに出ていく支店長の姿を不思議に思い、上席に聞いてみた。聞けばロータリークラブというところに行くらしい。

「ロータリークラブってなんですか?」—「良くわからないけど、奉仕活動をするところらしいよ」。これがロータリーの名前を聞いた最初であったと思う。「営利目的ではなく、奉仕活動をするための集まりである」と。会社員が奉仕活動を行うことがとても新鮮に聞こえた。どうやらロータリークラブ(以下RC)は弊社(旧三井信託)初代社長の米山梅吉氏(以下「米山さん」(※))が米国から日本に持ってきたものであるということや、弊社(同)の当時の社是である「奉仕と開拓」が、米山さんに由来していることが判った。調べてみると米山さんは静岡県長泉町の方で記念館もある人らしい。RCも歴史と格式のある組織であることがおぼろげながらわかつてきた。このころからRCというものに、何となく憧れを持つようになっていた。

(※)弊社では役職にかかわらず「さん」付け呼称をしており、以下「米山さん」と記載します。

■「奉仕と開拓」への傾注

米山さんをより意識し始めたのは、入社3年目ぐらいたったと思う。「奉仕」よりは「開拓」であった。当時、私は法人の新規開拓をしていた。若輩者の私

にはメンタル的にきつかったが、新しいビジネスができることに魅力を感じた。また早くに結婚し長男が生まれたが、新規開拓の思い出から、「拓巳」と名付けた。自分の道を自らの力で開拓してほしい、そんな思いを込めていた。ここも米山さんから影響を受けたものだと思う。

■静岡への着任と、米山梅吉記念館との出会い

時は流れ、2022年4月から三井住友信託銀行静岡支店長として着任した。静岡県は米山さんの出身地で、偶然だが本当に良い場所にこれたと思う。米山梅吉記念館(以下 記念館)にはぜひ訪れたいと思い、その年の冬にようやく見学できた。そこで初めて米山さんの詳しい生い立ちや、実業界での役割、日本でのRCの設立、奉仕活動、社会的弱者への支援活動、そして粋な愛用品等、偉大な足跡を目の当たりにし、改めて人となりを知ることが出来たのは本当に良かった。特に旧三井信託社長室の米山さん愛用の机と金庫の展示を見たとき、若い時の「奉仕と開拓」への思いを改めて再認識した。

■米山さんと信託、弊社100周年、ロビー展

しかし、記念館には米山さんに関するもう一つの側面、日本への信託導入に関することが少なめな感じがする。ロータリアンとの会話でも、米山さんが日本のRC創始者ということは皆さんご存じだが、日本で信託法・信託業法に基づく最初の信託会社(旧三井信託)を作ったことは、あまり知られていない。

弊社は今年4月で旧三井信託の創業から100周年となった。そこで、静岡つながりである米山さんと当社100周年に関するロビー展を4月~6月にかけて、静岡では静岡支店と沼津支店で実施した。

記念館には貴重な資料を幾つかお借りし、多大なるご協力を頂いたことを、改めて感謝を申し上げたい。

静岡支店で展示した内容は以下の通り。

- ・旧三井信託にあった米山さんの肖像画(レプリカ)、自画像の描かれた寄書帳
- ・米山さんが翻訳したRC創始者のポールハリスの自叙伝本。
- ・米山さんの生い立ち、実業家として実績、RC設立についてのパネル展示。
- ・昭和4年に旧三井信託本店を日本橋の三井本館に移転した際の建物の内外装や竣工式の駆けつける来賓の様子を撮影した動画。(なお当時はまだ中央通りが砂利道で、そこにクラッシックカーとシリクハットで重鎮たちが駆けつける姿や、日本橋から東京駅が見える風景などは非常に貴重な映像だと思う。)



静岡支店での米山梅吉ロビー展

■米山さんと信託について、RCでの説明行脚

静岡支店は静岡市葵区紺屋町と静岡有数の繁華街の一角にあり、手前味噌ながら静岡では屈指の好立地である。折角なので静岡、清水、焼津にあるRCを回って、米山さんと信託の話をさせていただきロビー展への誘致を行った。参考にしたのは弊社OBである谷内宏文氏著の『点描 米山梅吉 日本のロータリークラブと信託業の創始者』である。取り上げた米山さんの信託創業に関するエピソードは以下の通りである。

・米山さんは、三井銀行で常務までスピード出世した後、欧米視察などを通じてRCを日本で初めて設立し、また信託法・信託業法に基づく初の信託会社を



静岡西RCメンバーとのロビー展応援写真

設立した。

・東京ロータリーを設立したのが1920年、2年後の1922年に信託法・信託業法が設立され、同年米山さんは三井銀行を退任。その2年後の1924年に旧三井信託を設立し、RC設立と信託設立はほぼ同時期に進められていった。

・信託とRCに通じるのは「商いを通じて社会に奉仕」するという考え方。

・信託業務は、委託者となるお客様の財産を、受託者である信託銀行が管理・運用し、その利益を受益者に還元するという構図だが、米山さんは、信頼されて財産を預かるには単に営利の追求のみならず、常に奉仕の精神を持つべきであるという信念と、創意と工夫をもって、社会にお役立ちする新しい仕事を作り未来を切り開くべきと考えていた。つまり奉仕を事業として実現できる最適な仕事が信託業と考えていた。それは旧三井信託の社是である「奉仕と開拓」という言葉にも表れている(なお「奉仕と開拓」は現在も弊社の行動規範の一つになっている)。

・「奉仕と開拓」の事例の一つとして、都心部での不動産分譲事業があげられる。設立の1年前(1923年)に関東大震災が発生し、都内には数千坪単位の空地が生じた。これを区画整理し分譲地にして販売したのは当時非常に好評を得た仕事だった。

・社名は三井信託だが、設立時から三井以外の出資も受け入れオールジャパンの信託を目指していたこと、また米国に学び、「資本と経営の分離」という先駆的なガバナンスを取り入れた。

・昭和2年から、土曜日午前だけ営業する所謂「半ドン」を民間企業の中でいち早く取り入れたが、これは社員の健康に資することでお客様に丁寧に対応することを目的としていた(私が思うに、今で言うところの「ウェルビーイング」に通じるものと思われる)。

これらの話を約10か所のRCでさせていただき、ロビー展は多くのロータリアンにご鑑賞頂いた。ご来店いただいた方々に改めて感謝申し上げたい。中でも国際ロータリー第2620地区ガバナー(当時)／中村皇積様(浜松ハーモニーRC)、同地区副幹事／寺戸常剛様(静岡RC)にもご覧いただいたのは大変光栄であった。また私の所属する静岡西RCのメンバーにも来店や告知等で多大な協力を頂いた。

■ロータリアンとなって、自分なりの奉仕活動

話は前後するが、静岡で念願のRCに入会出来、現在、静岡西RCにお世話になっている。ここでも偶然の出会いがあった。外部卓話で来られたNPO法人アートコネクトしづおかである。同NPOは静岡県から「まちじゅうアート」という、障がいのある作家のアートを貸し出すことでレンタル料の一部をアーティスの活動資金として提供する事業を行っている。社会貢献につながる良い仕組みだと思った。また私は、長女が美大を目指し一緒に美術館巡りをしていてアートを見ることが好きになっていた。そこでこの仕組みを利用し、支店内で障がい者アートのロビー展を行いお客様に見てもらうようにした。



静岡支店での障がい者アートの展示

その際、単純に展示するのではなく、作品を所属員に選んでもらい推薦コメントを添えるようにした。当事者意識をもって社会貢献に参画することで、昨今企業で重視されているウェルビーイングの向上につながることを企図した。従業員の働き甲斐が上がり、正の好循環に少しでもつなれば、と考えた。このロビー展は2年で4回ほど実施し、合計で40作品以上を展示することが出来た。これをきっかけに静岡県からは障害者芸術祭のサポート機会にお声掛けいただき、2023年の障害者公募展で三井住友信託銀行賞を設定させていただき、選定作品を支店に半年展示した。また、障がい者のアートや生活を理解するための社内セミナーも実施した。これらの活動を通じ、静岡に少しでもお役立ちができれば良いな、と思うようになったのは、米山さんからインスピライヤーされている面が大きいと思う。

■再び「奉仕と開拓」、そして次の100年へ

若いころは「開拓」が響いていたが、年を経て「奉仕」への思いに変化しつつある。50歳頃から、いかに社会に貢献できるかということを意識し始めた。静岡に来て記念館を拝見することで、ロータリーと信託は、職業を通じて社会に奉仕することと知り、改めて弊社創業者の一人である米山さんの考えに共感することが出来た。そこで、米山さんの故郷である静岡に来たのだから、何か静岡に奉仕できることをしたいと思うことが活動の原動力になっていた。その間、様々な方との出会いがあり、多数のご支援を頂いた。大したことは出来ていないが、感謝のお言葉を頂戴することもあった。お陰様で心の豊かさを手に入れた気がした。

現在、弊社では「社会的価値創出と経済的価値創出の両立」ということを経営の根幹にかけている。これは創業から100年経って、改めて米山さんの精神を受け継ぐものだと思う。次の100年に向けて何ができるのか、私に残された会社生活の時間は少ないかもしれないが、多くの諸先輩から受け継いだものを私なりに後世に引き継ぐ責任を負っていると認識している。

そのため、私は毎週水曜日になると、なるべく颯爽と誇らしげに出かけるようにしている。「じゃあ、行ってくるよ」と。



記念碑が取りもつ 交流の輪

青森県平内町 山口町内会 会長
三井報恩会と旧西平内村の歴史を語り継ぐ会 幹事長

須藤 恵悦



中央が筆者(岩手県紫波町の記念碑前にて)

平内町(ひらないまち)は、青森県のほぼ中央に位置し西は県都青森市に、東は下北半島への交通の分岐点である野辺地町に接し、北方は陸奥湾に突出し、美しい海と山に囲まれている。そして、町の中心部を国道四号線と青い森鉄道が横断している。東北新幹線新青森駅からは車で約50分、東北自動車道青森東インターからは約20分と、交通の便にも恵まれている。

当町の基幹産業は、水稻を中心とした農業と養殖ホタテの漁業であり、特に養殖ホタテの水揚げ高は日本一を誇り「ホタテの町」として知られている地区。また、津軽三味線を芸術としてその地位を築き国際的にも高い評価を受けた名人 高橋竹山が生まれ育った町でもある。

豊かな自然と環境に恵まれ、浅虫夏泊県立自然公園や昭和天皇が植樹祭においてになられた夜越山森林公園を抱え、温泉、キャンプ場、スキー場、洋ランとサボテン温室、パークゴルフ場やグラウンドゴルフ場も整備され県内有数の観光地で四季を通じて楽しめる。特に、夏泊半島には夏泊ゴルフリンクス、「小湊のハクチョウおよびその渡来地」で知られる浅所海岸や「本州最北限のツバキ自生地帯」として天然記念物の指定を受けた椿山。日本の渚・百選に選ばれた「椿山海岸」など風光明媚な町である。

平内の歴史は古く蝦夷語の「ピラナイ」が語源で、山と山の間の川が流れる土地という語義がある。鎌倉時代から南北朝時代までは南部藩で永享年間には津軽藩となり、現在も藩境塚が残され管理されている。明治4年の廃藩置県により平内村小湊に戸長役場を置き、明治22年に村制が布かれて東平内、中平内、西平内の3村に分かれたが、中平内は小湊町として町制を布いた。

時は流れ昭和30年3月に町村合併促進法に基

づき3町村が合併して平内町が誕生し現在に至っているが、合併前の西平内村の政争の激しさは県下でも有名で、物質的、精神的荒廃にあったことに加えて、昭和6年から10年まで続いた東北の大凶作により、軍では貯蔵していた軍需物資を放出して援助するという程のひどさで、村民は苦難のどん底にあった。

その時、この西平内村に三井財閥から救いの手が差し伸べられたのである。東北地方の大凶作にあたり一県に一ヶ村を県当局に指定させ、精神的、物質的両面からの更生を援助することになった。昭和10年、三井報恩会特定振興村に指定され、併せて青森県教化村に指定されたのである。

援助の内容については、『米山梅吉翁と青森県』という書籍に克明に記載されているが、地元の資料には次の通り記されている。(以下は抜粋)村の年間予算が2万5千円に対し毎年1万円の給付は恵まれ過ぎるほどの金額であった。そのほかの申し出により、それとは別に報恩会より相当額給付された。この援助は初め5年とされていたが、延長を重ね長きに亘った。中でも「村民の家」の建設は活動の中心となり村民にとって夢のような殿堂であった。この殿堂は、三井の指導で設立された産業組合の本拠や種々の会合に利用され、冠婚葬祭の簡素化のための調度品も備え付けられた。

隣組が新たに組織され、組織を利用して末端に各種の伝達がなされ、指導員が先頭に立ち各部落では種々な会合が持たれるようになっていった。それには、男性の集まりばかりではなく老若の婦人の会合も活発になされ、衛生思想の普及、生活改善、農事改良等、会合には映写機を備え付けて効果を上げた。特にトラコーマ絶滅には随分と日数をかけ徹底的な治療活動を行った。

以上の事例は、三井報恩会初代理事長米山梅吉翁が度々来青した際に浅虫温泉東奥館（昭和天皇も宿泊された）に呼ばれ懇談した当時の西平内郵便局長豊島民藏氏の記録の一部であり、羅列すればきりがない。三井報恩会の援助を受け、実践した各活動で得たものは、部落民の発言が多くなったことや、部落会計のルーズさが改められたこと、衛生思想が普及したこと、農事の向上により収量が増加したこと等のほかたくさんあるが、その中でも最も大きなものには、政争村として県下に日本一の悪村の名を売った西平内村がその汚名を返上できるようになったことである。そして村民の目を開かせ村民の自覚を促した結果であろう。と結ばれている。

関連して、平内町には鉄道駅舎が4か所存在するが、鉄道が開通した時は西平内村には駅舎はなかった。三井の指導により鉄道大臣に請願した結果、ほかの駅舎より大分遅れて開設された。いかに遅れた村であったことがうかがえる。駅舎の開設に伴い国立療養所（病院）も開設されるなど振興策が次々と図られていったのである。

私は昭和24年にこの地に生を受け、今は地域の役割の一部を担っている一人であるが、幼少のわんぱく時代、あの記念碑の周囲を遊び場として成長してきた。よく父母、祖父母に聞かされてきたのは「三井報恩会」と「大事な石碑だ」ということだけである。

まず、国道4号線沿いに山口コミュニティセンター（コミセン）があり、正面玄関脇に米山梅吉翁が揮毫した西平内村振興記念碑が威風堂々とした姿で建立されている。この記念碑は悪村から良村へと生まれ変わりを果たしたことに対する感謝を込め、村民の寄付を募り白御影石で昭和16年に建立したもので、往時を偲ばせてくれる。現在では見学者が時々訪れ、小型の案内板は国道のバス待合所そばに「米山梅吉記念碑」と記され設置されている。

私は、町役場職員として39年間奉職したが、その中で教育委員会に在籍中、現在のコミセン新築に携わった。新築に伴い記念石碑の移設費用に関わる予算交渉について予算支出を渋る財政係と、歴史文化財の価値ありと主張する私との間で予算獲得のため口論したことがある。記念碑の価値がわからない、然も旧西平内村以外の出身職員は全くの無知であり理解していない。同職として非常に情け

なく思った時でもあった。記念碑は町村合併になった時、平内町に移管されたのだがどういう形で引き継がれたのか私は疑問に思っている。

また、ロータリークラブ（RC）の方が訪問され相談を受けたことがある。それは、米山梅吉翁の逸話を生で語れる高齢者を紹介して頂きたいとのこと。その相談を受けて人探しをしたが、容姿は知っているが当時はまだ若僧だったので話をしたことがなくお伝えすることができないと断られた。私はその情報収集の為に努力されている方にそのまま伝えたが、地元住人として恥ずかしさを感じた。今となれば、あの時のRC幹事の方の苦労が理解できるような気がする。

眠っている地域遺産を自分たちの力で広めたいという気持に火が付いたのは、退職から4年後の平成25年（2013年）である。それは町の広報紙の記事がキッカケであった。その時、時同じくして指定を受けて振興を図った岩手県紫波町彦部地区（旧彦部村）があることに気が付いた。

広報紙の記事内容は、彦部地区住民40名が平内町の記念碑を視察し、既設の木柱から石碑に建て替える計画で、そのモデルとするため視察に訪問したこと。それに対し行政側幹部が対応して交流を図ったとのことだった。



町内会の仲間たちは、訪問団について地元に何ら知らせもなく行動した行政側の行為に対し、地元住民への配慮不足だと憤りを顕わにした。今は亡き当時の町内会長が「行政とのパイプ役として任務を果たしていない」と皆に吊し上げを食ったことを記憶している。私は町職員のOBとして、興奮する仲間を円満に抑える立場にあったので、私たちの宣伝不足が要因であり、今後私たちの活動を積極的に宣伝しようということで丸く収めたものだった。

翌26年7月23日に彦部住民23名が再度記念碑視察に訪問すると役場より連絡が入った。私たちは

急きよ、訪問に先駆けて前述の反省を踏まえ「三井報恩会と旧西平内村の歴史を語り継ぐ会（略称：歴史継承会）を組織した。旧西平内村管内の全集落対象に歴史講座を6月12日の一週間前に開催し、記念碑と自分たちの村の過去の姿を学び意識醸成を図ることを目的に参加を呼びかけた。地元西平内中学校校長を歴任し、郷土史研究の第一人者で私たちの恩師である鬼柳恵照先生（令和6年6月没）を講師に依頼した。結果、150名の参加者で会場が満席となった。そして23日に彦部住民35名を迎えて、名産ホタテ貝焼きを町職員と地元有志合同で大盤振舞をした。彦部では11月11日に盛大に石碑の除幕式が行われ、平内町からは企画課長が出席した。

この頃から私たちの意思が天に通じたのか、良いことが重なるようになってきた。活動も本格的になり、RCとの交流も始まる機会が生まれた。青森北東RCでは記念碑のそばに節目の記念植樹をしたい、との申し出が役場にあったようだが、あれ以来、地元町内会に相談するようにと指導するようになった。記念植樹は平内町長や教育長らを交えて30名規模で行われ、山口町内会と歴史継承会では全面支援した。



冬の記念碑

いよいよ大イベントになる時を迎えた平成27年。この年は昭和10年に特定振興村の指定を受けてから80年の年であり、また昭和30年に町村合併をしてから60年となる年とが重なる記念すべき年であった。町では合併記念祝賀行事を挙行するために予算確保しており、私たちは歴史継承会会长と町内会長を兼務させ、実行委員長も同じに充てていたこともあり、町と事業実施交渉するには一石二鳥で交渉がスムーズに進み、予算は簡単に確保できた。

イベントは6月21日に開催を決定し、会場はコミセンに設定。そのため駐車場整備や記念碑周囲も整備改修して頂いた。後は、自力本願を得意とする我

が町内会での企画から運営まで結束力と連携力を十分に發揮し、招待はじめ来客者をおもてなしするのみで準備万端。

開催当日はさわやかな天気に恵まれ、米山梅吉記念館からは井口理事がお見えになり、三井報恩会からは山口専務以下3名、岩手県紫波町からは熊谷町長はじめ長澤聖浩氏ら関係者が参加。関係ロータリーランも多数参列して頂いた。予定客数260名の席が足りずロビーに補助席を設けるほどで、新設のミニ記念石碑と合わせて記念樹の除幕式に始まり、歴史継承会顧問の鬼柳恵照先生の基調講演「西平内村を愛した米山梅吉」に引き続き、山口町内に伝わる伝統郷土芸能の「権現舞」の披露や、津軽三味線名人高橋竹山門下による三味線演奏、民謡、手踊り披露などで大いに賑わった。津軽地方では人気の津軽伝統人形喜劇「金太・豆蔵」に大いに沸いた。県外の方々は津軽弁が理解できなかったけれど、みんなが笑ったので一緒に笑ったとか。

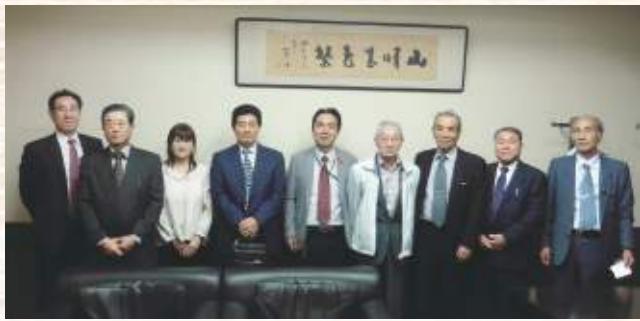
この山口町内会総力をあげて取り組んだ初の一大イベントは、大成功との評価を受け自信となった。正に大花火を上げたといつても過言ではなく、町内会の脚光度が一段と大きくなかった。このイベントを契機に今後、交流面が活発になっていくことが予想された。

平成28年11月13日には町内会の役員が交流訪問団を組み彦部地区を訪問し「80年の時を超えた交流会」と称し、紫波町長はじめ50名規模の熱烈な歓迎を受け、交流を継続していくことを誓った。

同年11月25日には西平内中学校校長が支援。学校と連携による「歴史講座」を開催し「旧西平内村と三井報恩会初代理事長米山梅吉」と題し、三井報恩会の存在とその歴史を語り継いだ。

平成29年6月28日には彦部地区住民らがコスモス種子を贈呈に来訪。海に縁のない彦部地区住民を漁船に乗せ漁師体験をしていただき大変喜ばれた。

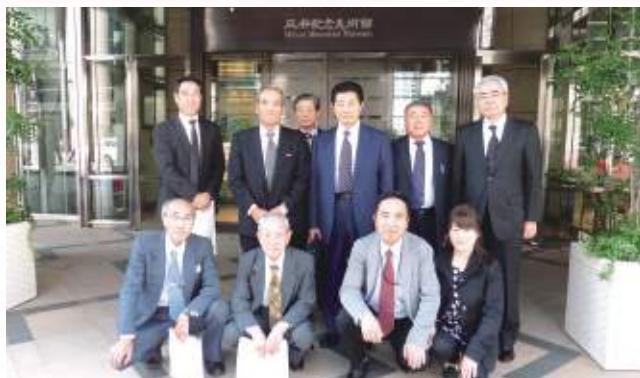
同年10月25日には歴史継承会10名による米山梅吉記念館の初表敬訪問が実現した。館内資料室の案内を受け、記念碑のパネルが展示されていることに一同感動。また、理事長室には米山梅吉翁が現地で書かれ豊島民藏氏に贈呈された「山晴春色繫」扁額が掲示されていることを確認し、一同は実物を見学したことで次のアクションを起こすことを心



記念館の扁額と訪問団

に秘めた。この扁額は豊島民蔵氏が没後、豊島家から青森のRCへ寄贈され、更に記念館に寄贈されたものである。本年、この扁額複製品を里帰りさせることに取り組んでいる。

翌日の26日には三井報恩会(東京・日本橋)を表敬訪問した。三井不動産ビル会議室にて昨年開催した80周年記念祝賀会の話で盛り上がり、三井記念美術館での展覧会に招待を受け、更には昼食の接待を受けたことが思い出として残っている。



三井訪問(右端は山口専務)

平成30年11月21日にはコスモス種子の贈呈を受け、花の管理女性団体として新規に組織された「コスモス会」20名が彦部地区を訪問し、女性同士の交流会を実施、特産のぶどう狩りを楽しんだ。

令和元年9月14日は盛大に開催された記念館50周年記念式典に招待を頂き交流した。会場では三井報恩会山口専務とも再会でき、『米山梅吉ものがたり』著者の柴崎由紀さんと同席となり歓談。記念石碑視察のために来訪を要請した有意義な一日となつた。

同年9月15日には平内町ホタテの祭典に紫波町物産販売のため初出店。(以来、毎年継続出店)

同年10月23日には、記念館50周年記念式典で同席した柴崎由紀さんとの来訪約束が実現。平内町管内名所の見学案内と町長、教育長とも面談。夜

は歴史継承会と青森北東RC計15名が共催し歓迎会の宴を開催した。

同年11月2日には青森北東RCが植栽した記念樹が成長したことから町長はじめ来賓を迎えて枝の剪定式を実施し、地域住民と交流会を開催した。

令和3年9月21日、地元新聞に活動状況ほか関連記事が大きく報道された。報道の力は言うまでもなく効果抜群で、県内各方面から問い合わせが相次ぎ、その応対に嬉しい悲鳴を上げた。

以降、県内各方面のRCよりコミセンを借上げしての移動例会が開催されるようになり「記念碑と奉仕の人米山梅吉翁」と題して卓話を依頼され、歴史継承会が対応している。また、青森北東RCと町内会100名規模による合同での平内町観光地の清掃活動を実施するなど、交流は発展の一途を辿っている。

自治体間では岩手県紫波町のイベントでは平内町の海の幸(特産活ホタテ貝)が、平内町のイベントでは紫波町の山の幸(特産ぶどう)が人気を博し、相互の特産品交流にまで発展している。

以上のほか、町内会あげて取り組んでいることは、住民による労力奉仕である。地域の宝物(遺産)であるということを認識し、記念碑周囲の環境整備活動を実践している。現在では3月下旬に雪廻いの解体作業。4月下旬にごみ拾い活動。5月下旬に花の植栽活動。6月中旬、7月中旬、9月中旬に草刈りと草取り活動。11月中旬に植栽の始末と雪廻い作業が年間における一連の作業として定着した。本年は記念碑周囲の側溝整備も完了しさらなる環境の整備が図られた。

昭和10年に特別振興村として指定を受けてから、90年を迎えようとしている。米山梅吉翁は当地で直接振興のため指導したものであるが、令和の現在においても地域の活性化活動の基礎になり各方面に交流の輪が拡大していることに感慨深いものがあり、誠に不思議である。

私たち地域の先人たちが三井報恩会初代理事長米山梅吉翁の支援を受けて現在があることを後世に伝え、併せて恩返しの念をもって今後とも歴史継承活動を継続していく覚悟である。

全国のRCの皆様におかれましては、機会がありましたら是非一度お運び頂き、私たちと交流頂ければ幸いに存じます。



津田 仙(1837-1908)

津田 仙について



津田 道夫

1970年、日立製作所コンピュータ事業部に入社。システムエンジニア及びソフトウェア生産技術の開発に従事。大阪大学で博士（情報科学）取得。退職後に津田仙や津田梅子を支えた親族たちや学農社の人々を研究している。学農社は津田仙が創立した農業結社である。津田仙は曾祖父で、梅子は大伯母になる。

津田梅子は晩年に「私の生涯は不思議な運命に導かれた生涯だった」と回顧している。しかし、津田梅子の偉業は父親の津田仙がいなければ達成できなかつた。父親は「不思議な運命」よりも「大きな運命」だったかもしれない。ふたりの性格は似ている。ともに信念を行動で実現する親子であった。

津田仙は佐倉藩士小島善右衛門の三男として佐倉城内で生まれた。現在、ここに佐倉中学校があり校庭に生誕記念の月桂樹が植えられている。12歳の頃には武芸に励んだ。剣術の立見流（たつみりゅう）は佐倉藩門外不出の武術で、現在も佐倉市で伝承されている。2024年5月、立見流第22代宗家加藤紘氏は、仙が第18代逸見忠藏から授与された目録の種類と時期を特定して発表している。

仙は14歳で佐倉藩士桜井家の養子になる。17歳の時に、千葉の寒川で黒船を見たとき西洋文明に驚愕して「武芸修行」から「洋学修行」に転向した。しかし、佐倉での洋学修行は不満足で20歳の時に桜井家を離縁して江戸に向う。余談だが、跡取に逃げられた桜井家は新たに領助を養子に迎えたが、領助は戊辰戦争に出陣して福島で戦没する。佐倉麻賀多神社境内にある義烈之碑に、彼の戦没記録が刻まれている。

仙は手塚律蔵の私塾又新堂（ゆうしんどう）で洋学を学んだ。ここで新島襄と知り合い、ふたりは生涯の友になる。仙が学農社農学校を設立した時に新島襄は教え子たちを教師に派遣した。彼らは後に青山学院や津田塾大学の創立に貢献した。仙は「蘭学」から「英学」に転向して又新堂を離れ、教師を求めて転々とする。

4年間の修行の後、仙は幕臣津田家の婿養子にな

り外国方通弁（通訳）に採用される。給与は5人扶持で現在に換算すると年収130万円の薄給である。結婚相手は津田栄七の次女・初子で、ふたりは両親の住む牛込御徒町組屋敷に住んだ。ここが梅子の生誕の地である（東京都新宿区南町34）。

慶応3年（1867）、小野友五郎使節団の通訳として初めて渡米した。この時に農家の豊かさを知る。「アメリカで四民平等尊卑の別なく、ことに農家の裕福にして、農業は国家の幸福を来すべき事業たるを知った」と回顧している。ここでアメリカの女性が高い教養を持ち活躍するのを知ったことで、梅子の留学の動機になったといわれているが、こちらはエビデンス（証拠）がない。仙は通訳のほかに書籍購入の役目もあった。その中にヘンリー・ハーツホンの医学書があった。この本は明治5年（1872）に『内科要摘』の和名で翻訳されてベストセラーになった。その縁でヘンリー・ハーツホンは来日する。娘のアナは梅子の親友になり女子英学塾（津田塾大学）を長く支援した。余談だが、仙は上陸したサンフランシスコで鬚を切り留守宅に郵送したので、津田家では大騒ぎになった。断髪した洋装姿の写真が残っている。

仙の生涯の危機は新潟戦争だった。慶応4年（1868）3月、新潟奉行所通弁を命じられて新潟に赴任した。慶応3年10月の大政奉還に続き、翌年1月3日の鳥羽伏見の戦いで幕府軍は敗走しているので、この人事異動はずいぶんひどい人事である。新潟は奥羽列藩同盟の支配下にあったので新潟戦争が始まった。7月27日、仙は料亭「鍋茶屋」で同僚の長谷川清次郎、山西百太郎と官軍の捕虜になる。討ち死を主張

する山西を仙が説得したという。捕虜になったが幸いなことに官軍に知人の通訳西定八郎がいて放免された。そこから長崎まで逃走したが1か月で東京に戻った。逃走中の慶応4年9月8日に時代は明治になる。仙が新潟に残した書物は「鍋茶屋」の主人が東京の仙あてに郵送した。「鍋茶屋」は現在も新潟で営業している。

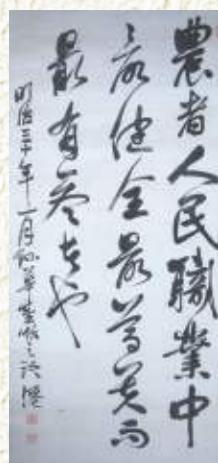
明治になり武士階級は消滅した。武士たちは自活の道を探した。津田栄七の妻・ふくの実家は八王子千人同心の栗沢家である。栗沢家は八王子で盛んだった織物業(八王子織物)に転じた。津田栄七の長女・竹子は14才の時に徳川田安家5代・8代当主の徳川慶頼(よしのり)の側室になり、7人の子供を産んだ。その中に徳川宗家15代家達(いえさと 幼名亀之助)と田安家9代達孝(さとたか)がいる。津田栄七は慶応2年(1866)に田安亀之助殿奥詰になっている。仙の実父・小島善右衛門は佐倉藩が分譲した将門町で農業に転じたが、生活は困難で明治12年ころに東京に転居し、その後の消息は不明である。

仙は英語力を生かして築地ホテルに就職した。その後、北海道開拓使嘱託を経て農業家になった。就職に困らなかったので、梅子が女子英学塾で女性に英語力を持たせたのも開校の要因のひとつかもしれない。

明治8年(1875)、農業結社・学農社を設立して農業家になった。ジョージ・ワシントンのことばを座右の銘

にした。「農者人民職業中最健全最尊貴而最有益者也」(農業は、最も健康的で、最も有益で、高貴な職業である)。役所が主導する上からの農業振興を嫌い、農業者に高い自立精神を求めた。

西洋の野菜と果物を輸入して普及を図った。目的は、多様な換金作物による農家の収益化であり、滋養ある作物による国民の健康確立である。学農社は野菜・果物・樹木の種や苗を輸入して販売した。トウモロコシの種の通販が日本最初の通販である。日本最初の専門雑誌『農業雑誌』を発行して新しい植物の栽培法を教えた。ピーク時には3400部発行し、全国の篤農家に販売した。



座右の銘

東京麻布の農園で西洋野菜を栽培して販売したが苦労した。「エッグプランツ」を「鶏卵草」と訳して栽培したら、昔から日本にあるあるナスだったという笑い話がある。アスパラガスは缶詰の白色と違い緑色のものができたので、百科事典で栽培法を調べたという逸話もある。

農園で栽培したのは、イチゴ、リンゴ、ブドウ、アスパラガス、キャベツ、レタス、ブロッコリー、カリフラワー、タマネギ、トウモロコシ、トマトなどである。西洋野菜は売れなかつた。料理法が普及していなかつたので西洋料理レシピ本の出版もした。キャベツは「悪臭」「泥臭い」と評判は悪く、普及したのは大正のころである。都市部でキャベツの料理法が広まつたのと、軍隊や学校給食の採用も普及を押した。

佐倉市の小中学校は毎年、津田仙の命日(4月24日)に合わせて「津田仙メニュー」の給食を実施している。



農業雑誌



こうぼう佐倉



メニューのレシピは公開されていて、ある中学校のメニューは、アスパラガス、キャベツ、ブロッコリー、カリフラワーを使った「津田仙マリネ」、キャベツ、トマト、セロリなどが入つた「ジュリエンヌスープ(千切り野菜のスープ)」、チキングラタン、パン、牛乳。パンにつけるのは仙が初めて輸入したイチゴのジャム。給食の時間に栄養士が教室を回り、津田仙メニューの説明と食事の大切さを教えている。

学農社農学校を設立して人材の育成を図つた。学農社農学校では西洋農業技術の教育だけではなく、

自律精神の涵養も実施された。この基本になるのがキリスト教で、日曜学校では外国人宣教師の講話があった。仙が新島襄にあてた手紙では生徒の7割がクリスチヤンになったと書いている。学農社で学んだ多くの若者たちは、地方で農園や新事業を開拓した。現在も農学校卒業者の家から仙の書簡や揮毫が見つかっている。

街路樹の植樹を推奨して、「街路樹は道路を補強し寒暖の差を調整する。特に灼熱の夏には清涼な風を吹かせる。炭酸と譜母亜(アンモニア)を吸収して酸素と水分を吐く。火災では防火林になる」と解説している。東京都最初の街路樹記念碑が皇居前にあるパレスサイドホテル近くの路上にある。



東京都の記念碑

津田仙はいくつかの学校の創立に貢献している。青山学院の最初のひとしづくは、女性宣教師ドーラ・E・スクーンメーカーが明治7年(1874)11月16日に創立した女子小学校である。来日したスクーンメーカーは仙に支援を求めた。仙は学校設立願を出し校主になった。生徒が集まらず家族が動員された。仙の妻・初子・長女・琴子、長男・元親、次男・次郎が最初の入学者である。女子小学校は仙の隣家の岡田邸で始まったが、以降は学校名と場所を変えながら青山学院につながっていく。

フレンド派(クエーカー)宣教師のコサンド夫妻が普連土女学校(普連土学園)を創立した時、仙は自宅の敷地と建物を提供した。仙が「普連土」の名付け親になった。「普(宇宙)連(つらなる)土(地球)女(少女たち)学校(学校)」は「宇宙に連なる地球に住む少女たちの学校」と読むのだろう。

仙は筑波大学付属視覚特別支援学校(附属盲学校)創立者のひとりである。仙は3才の時に罹った天然

痘で失明しかかった体験があった。英国人医師ヘンリー・フォールズは、日本に盲人が多いのに気付いて教育施設の必要性を訴えた。これに呼応して津田仙、中村正直、岸田吟香などが盲人教育施設(訓盲院)設立団体の楽善会を発足させた。訓盲院は明治13(1880)に設立される。東京築地にある国立ガン研究センター中央病院の隣にある小さな公園の中に訓盲院記念碑がある。

仙は社会運動家でもある。禁酒運動で仙は日本禁酒同盟の役員になり全国を講演して回った。啓蒙書『酒の害』を出版した。禁煙運動では全国からキセルを集め「禁煙の鐘」を造り、明治26年(1893)のシカゴ万博に出品した。この鐘は現在も米国禁酒同盟の関係者が保存している。



禁煙の鐘



訓盲院記念碑

足尾銅山鉱毒事件では反対運動に参加した。元農商務大臣谷干城や農商務大臣榎本武揚を現地に案内した。足尾鉱毒問題演説会で公害の様子をスライドにして上映した。この写真を使って「足尾鉱毒惨状画報」が出版された。この画報は国立国会図書館デジタルコレクションでWeb閲覧できる。



明治41年(1908)4月

24日、津田仙は横須賀線の車内で急死した(享年70)。仙は日記などの記録を残さなかった。しかし、現在でも全国で発見される仙の書簡などで広い活動の様子が分かる。大正13年(1924)、津田梅子は女子英学塾教授吉川利一に依頼して『津田仙翁略傳』を出版している。

津田仙と米山梅吉は、ともに青山学院の功労者であるが、ふたりが交流した様子は見つかっていない。米山梅吉が銀行員として働き始めたころに仙は引退している。

米山別邸の庭

都会で忙しい生活をしていると、田舎暮らしに憧れる。実業界で分割みの仕事をしていた米山梅吉もご多聞に漏れず、長泉の別邸では庭の木々の縁に目を休め、鳥のさえずりに耳を傾け、時には植木屋の職人との会話を楽しんだ。ある日、出入りの植木屋職人が、風呂場のお湯で手を温めていた。朝湯を習慣にしていた米山は、これを見つけて怒り入り禁止を言い渡した。職人は湯舟を使ったわけではなく、桶に湯を取って手を温めていただけだったと説明して詫びたが、米山は聞き入れなかった。しかしこの職人は腕がよかったので、親方は頬かむりをさせて働かせていた。しばらくして、米山は庭でこの職人を見つけた。あわてて頬かむりをとつて挨拶した職人に「お前、来ていたのか」と呵々大笑。入り禁止を解いたという。職人がバケツくらいの大きなハチの巣を見つけると「これは芽出度い」と大喜びし、お客様が来る度にこれを見せた。四十雀を見

つけたときは、雛が巣立つまで見守り、歌を詠んだ。庭で過ごす時間は、米山にとって寛ぎのひと時であった。

そんななごみの空間、別邸の庭に龍舌蘭が咲いた。おそらく友人知人に連絡をして、珍しい花の開花を自慢したのであろう。そして短歌に詠んだ。

故郷の庭に竜舌蘭の花さけるに
めでたしと人のたゞふるにまかせつゝ高々と咲けり
竜舌蘭の花は
天に冲しさけるこの蘭をゝしくも雲を呼び来て己が
色とせる
百年に一たびのさかえ花さきて枯るとふこれの蘭
の奇しも

また、漢詩でも詠っている。

竜舌蘭
故国庭裏有竜舌蘭一日花發人奇之來觀者多日此花
百年一發即枯死。
竜舌蘭今竜舌蘭。風標勁直逼空寒。亭亭玉幹當書案。
鬱鬱金柯映画欄。幽質縱無帶雨。
壯心好有鬢衝冠。山花發忽枯死。誰道百年遭遇難。

令和6年7月 リュウゼツラン開花までの軌跡



2023-24年度ご寄付をいただいたクラブ(個人含む)

2500 北見東、釧路、釧路北、旭川 2510 千歳、当別、札幌西、白老、札幌手稲、洞爺湖、千歳セントラル、恵庭、様似、札幌幌南
2520 盛岡滝ノ沢、岩出山、名取、遠野、宮古、釜石 2530 ガバナー事務所、郡山、原町中央、福島南、郡山南、浪江、いわき平東、福島東、地区米山奨学委員会、郡山東 2540 鴻上、大曲仙北、秋田東、秋田 2550 栃木、栃木西、第9グループ、佐野東、真岡、宇都宮南、宇都宮陽東 2560 三条北、三条東 2570 新所沢、行田、志木、熊谷籠原、地区米山奨学委員会、鶴ヶ島、川越、川越中央 2770 大宮北、大宮中央、さいたま新都心、浦和、地区米山奨学委員会、浦和ダイヤモンド、浦和北東、春日部西、浦和東、蓮田、鴻巣水曜、鳩ヶ谷、川口 2790 松戸、松戸東、松戸北、八千代中央、千葉若潮、野田東、東金、勝浦、流山中央、地区米山奨学委員会、市原、大網、君津 2800 米沢中央 2820 茨城、下館、ガバナー事務所 2830 ガバナー事務所、八戸東、青森モーニング、青森、三戸 2840 高崎、高崎東、伊勢崎中央、沼田中央、桐生西、前橋東、富岡かぶら、太田 2580 東京、東京江北、東京板橋、東京麹町、東京臨海東、東京王子、東京本郷、東京池袋豊島東、東京東村山、東京紀尾井町、東京武蔵村山、東京上野、東京南、地区奨学委員会、東京江戸川中央、東京武蔵野中央、東京葛飾東、東京築地、東京板橋、東京秋川、東京西北、東京東、那覇西、東京リバーサイド、東京四谷 2590 神奈川東、川崎マリーン、新横浜、横浜南陵、横浜山手、地区米山奨学委員会、横浜田園、横浜港北、川崎麻生、神奈川、横浜あざみ、横浜南、横浜ベイ、神奈川東、横浜磯子 2600 あづみ野、松本西南、軽井沢、岡谷、長野西 2610 白山石川、野々市、富山中 2620 ガバナー事務所、藤枝南、伊豆中央、沼津北、裾野、浜松西、富士宮、袋井、浜松、榛南、静岡、長泉、静岡東、せせらぎ三島、浜松北、藤枝、焼津、甲府南、静岡西、清水中央、沼津西、笛吹、静岡北、浜松ハイモニー、伊東西、甲斐、甲府西、焼津南、静岡中央、伊東、御殿

場、都留、富士吉田西、富士吉田、甲府北、三島、山中湖、甲府、静岡西、浜北、浜松中、掛川、浜松南、大月、河口湖、熱海南、浜名湖、富士、三島西、沼津柿田川 2630 岐阜、多治見リバーサイド、中津川、岐阜加納、四日市、四日市西、上野東 2750 東京飛火野、東京築地、東京品川、東京銀座、東京銀座新、東京調布むらさき、東京調布、東京多摩、東京赤坂、東京米山ロータリーEクラブ、東京シティ日本橋、東京日本橋、東京高輪、東京芝、東京日本橋西、東京目黒、東京東目黒、東京武蔵国分寺、東京町田、東京井の頭、東京クロスシティ、東京米山友愛、東京愛宕、東京昭島、東京八王子南、東京中央新 2760 東海、名古屋栄、稻沢、瀬戸、愛知ロータリーE、名古屋錦、豊田三好、一宮北、一宮中央、半田南 2780 ガバナー事務所、茅ヶ崎湘南、相模原橋本、横須賀、厚木中、藤沢南、茅ヶ崎中央、地区米山奨学委員会 2640 ガバナー事務所、海南東、有田2000、岸和田南、和歌山北、田辺、田辺東、松原、関西国際空港、堺、有田 2650 奈良、京都イブニング、奈良、敦賀、京都洛北、東近江、大和高田、京都乙訓、京都洛南、大和郡山 2660 茨木、茨木西、香里園、豊中 2670 安芸、八幡浜、鳴門、高松東、高松、善通寺 2680 姫路、神戸西神、豊岡、神戸東、加古川、芦屋川、加古川平成、神戸須磨、生野、芦屋 2690 岡山東、岡山、笠岡、益田西、松江しんじ湖、大社、玉島、総社 2700 福岡西、行橋、小倉、直方、久留米 2710 三次中央、柳井西、広島、広島中央、広島南、東広島、呉南、呉東、江田島、東広島、広島東南、広島南、広島安芸、広島西南、広島城南、広島廿日市、鞆の浦、宇部西、福山東、山口、山口県央、福山、福山南、竹原、萩、萩東、岩国、岩国西、尾道、尾道東、福山丸之内、因島、三原 2720 熊本、熊本江南、別府、荒尾 2730 ガバナー事務所、伊集院 2740 伊万里西

その他AFSの会、千種会、第三回米山学友世界大会、輝く瞳に会いにいこう、台湾米山学友会

お知らせ

米山梅吉記念館

秋季例祭

[日時] 2024年9月21日(土) 14時~

[場所] 米山梅吉記念館ホール

秋季例祭講演

[演題] 米山梅吉翁が信託を創業して100年

～翁の信託業に対する熱い思いと今も受け継がれる

「奉仕と開拓」の思想とは～

[講師] 橋本 憲明 氏 (東京日本橋東RC/三井住友信託銀行日本橋営業部長)



米山梅吉記念館のご案内

新幹線三島駅よりタクシー5分

東名沼津ICより15分

[開館時間] 午前10時~午後4時

[休館日] ●月曜日 ●12月28日~1月4日

●整理のための休館日(5月・8月の特定日)

米山梅吉記念館 館報 Vol.44 秋号

■発行日／令和6年8月20日 ■発行者／公益財団法人 米山梅吉記念館 理事長 松村 友吉
〒411-0941 静岡県駿東郡長泉町上土狩346-1
TEL(055)986-2946 FAX(055)989-5101 E-mail yumh@ai.tnc.ne.jp

米山梅吉記念館
公式ホームページ
<https://yoneyama-umechichi.jp>

